

海徳海山の火山活動解説資料（令和4年11月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

今期間、噴火は認められないものの、引き続き、変色水が認められたことから、活発な火山活動は継続しており、海底噴火が発生する可能性があります。

海徳海山の周辺海域では、海底噴火に警戒してください。また、海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

令和4年8月23日に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表しました。その後、警戒事項に変更はありません。

○ 活動概況（図1）

気象衛星ひまわりの観測では、噴火は確認されていません。

25日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、海徳海山付近に直径約300mの円形の濃厚な黄白色の変色水が認められました。また、そこから南西方向に幅約1km、長さ約10kmにわたり青白色の変色水が認められました。

今年8月に海上保安庁が実施した上空からの観測結果と比較すると、変色水の湧出域の拡大がみられ、湧出する変色水がより濃厚になっていることから、火山活動がさらに活発化している可能性があります。

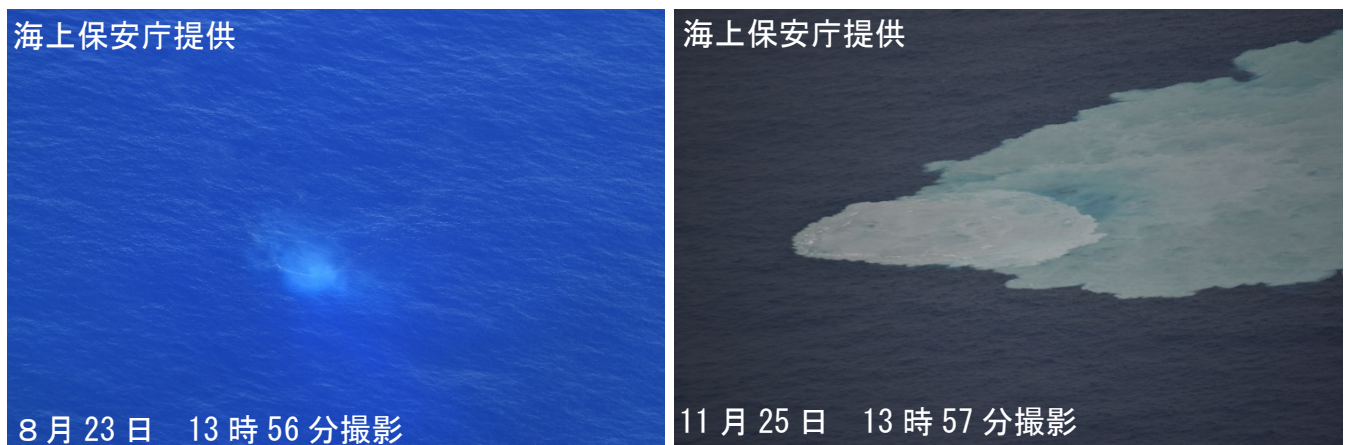


図1 海徳海山 2022年8月23日（左）及び11月25日（右）の状況

- ・ 11月25日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、直径約300mの円形の濃厚な黄白色の変色水の湧出域が認められました。
- ・ 2022年8月23日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、直径約100mの円形の薄い黄白色の変色水が認められました。
- ・ 2022年8月23日及び11月25日に海上保安庁が実施した上空からの観測結果と比較すると、変色水の湧出域の拡大がみられ、湧出する変色水がより濃厚になっています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。

海徳海山

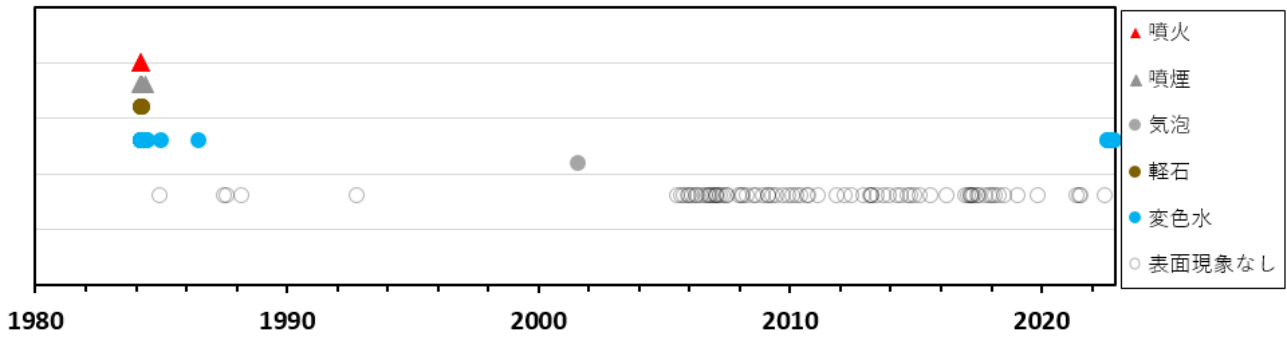


図2 海徳海山 1980年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲及び△はそれぞれ噴火及び噴煙（1984年）を示します。●及び●はそれぞれ変色水及び軽石が認められた観測、●は気泡が認められた観測、○は変色水等が認められなかった観測を示します。

海上保安庁、海上自衛隊、気象庁の観測及び漁船、報道機関等からの情報による。

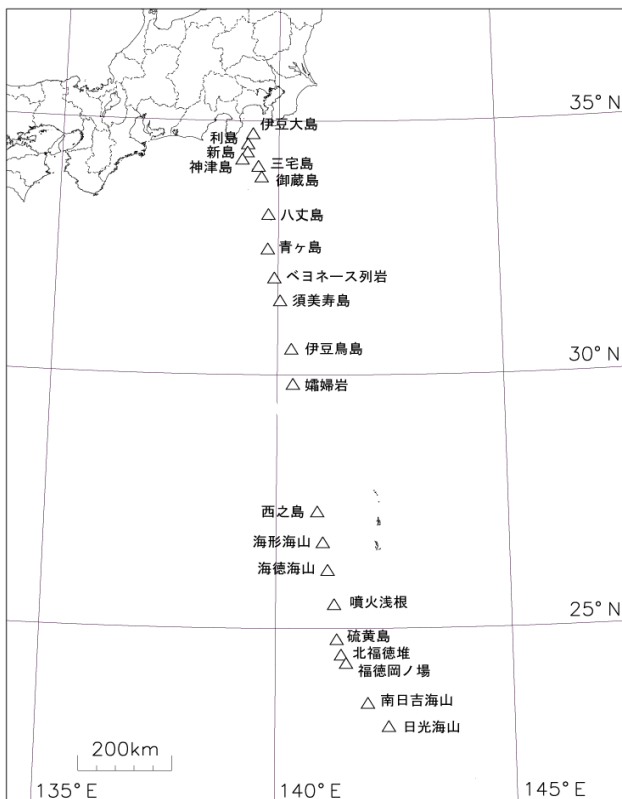


図3 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び海徳海山の位置図

海徳海山は、東京の南約1,050 km、小笠原諸島母島の南西約120kmに位置します。